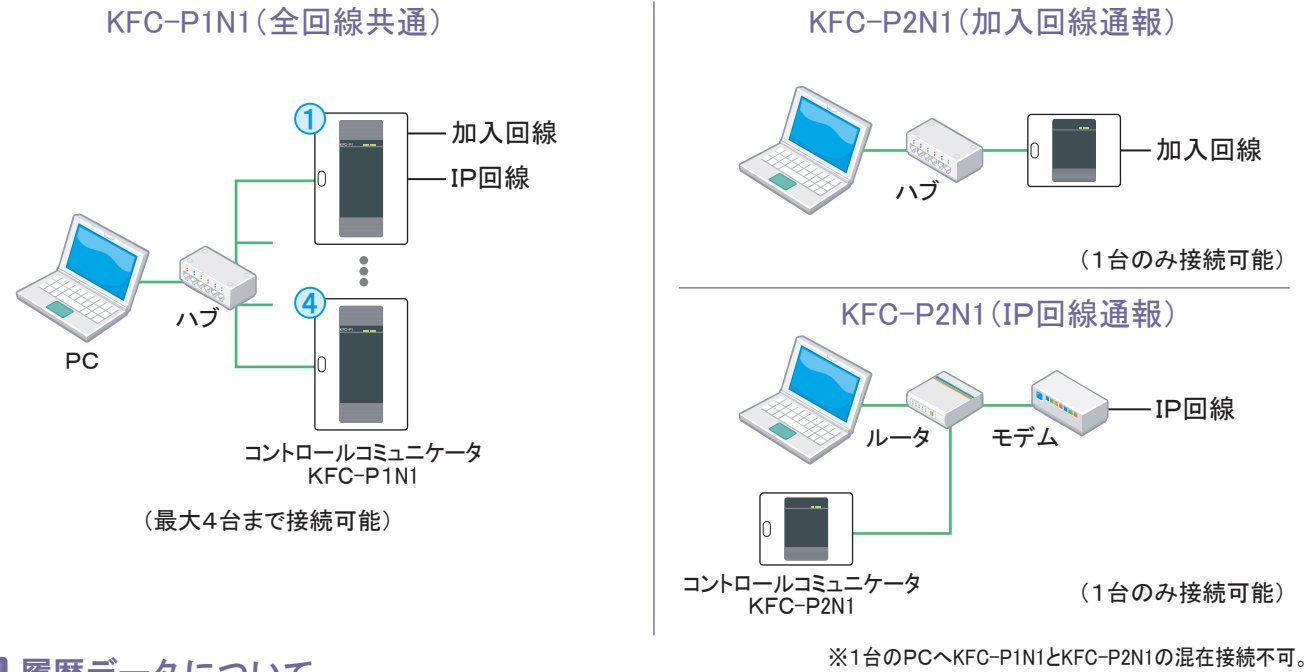


■ 系統図



■ 履歴データについて

コントロールコミュニケーターに蓄積されたデータを読み込みます。

コントロールコミュニケーターには、最大10,000件のイベント履歴を保管する「イベントバッファ」が備わっています。コントロールコミュニケーターとPC間の通信が開始されるとイベントバッファ内のデータをPCに送信して表示します。

PCが停止しても、データは保管されています。

コントロールコミュニケーターとPC間の通信が停止した場合、コントロールコミュニケーターはPCへのデータ送信を停止し、イベントバッファへデータの保管を開始します。通信が再開されると保管されたデータを送信しますので、データの漏れがありません。

PCに保管されたデータはCSVデータとして保存

PCに送信された履歴データはPCのハードディスクに保存されます。ハードディスクの空き容量が少なくなった場合、データの保存が必要な場合は画面上に警告が表示されますのでCSVデータとして外部に保存してください。必要でない場合は古いデータから上書きを行います。

■ 仕様・注意事項

パソコンの使用環境		
OS	Windows 7 / Windows 8 / Windows 8.1 / Windows 10	
ランタイム	Microsoft.NET Framework2.0 以上	
CPU	Intel Pentium (R) 4 以上、または同等以上	
メモリ	Windows 7 Windows 8 Windows 8.1 Windows 10	32bit の場合 1GB以上 64bit の場合 2GB以上
ハードディスク空き容量	10MB 以上	
ディスプレイ(解像度)	XGA(1024 × 768) 以上	
その他	CD-ROM/USB ポート/LAN ポート(10/100/1000Base-T)	
諸元		
接続対応機種 / 接続台数	コントロールコミュニケーター KFC-P1、-P1e、-P1N1、-P817 / 最大4台 コントロールコミュニケーター KFC-P2、-P2N1 / 最大1台	
履歴表示画面	最大イベント表示数 各タブにつき3000 イベント	
履歴検索画面	検索結果表示件数 99999 イベント	
履歴保存ファイル容量	約12000 信号/1MB	

- IP通信に関わるイベント情報は表示されません。
 - ・通信開始IP
 - ・トンネル1 切断
 - ・ソケット停止
 - ・シリアルNo.不一致
 - ・DHCP 取得DHCP
 - ・通信停止
 - ・トンネル2 接続
 - ・TCP 送信エラー
 - ・VPN 履歴要求
 - ・DHCP 更新エラー
 - ・トンネル1 接続
 - ・トンネル2 切断
 - ・TCP 受信エラー
 - ・リンクダウンWAN
 - ・設定ダウンロード要求
- 本ソフトウェアで常時監視を行う場合、KFC設定ソフトウェア2以外の他のソフトウェア(Excel, Wordなど)を同時に移動させることはできません。
- 1台のPCにKFC-P1とKFC-P2を混在して接続することはできません。
- カード所有者の個人名称は、コントロールコミュニケーターごとに別途入力が必要です。
- オフラインでご使用の場合、コントロールコミュニケーターの設定にはKFC設定ソフトウェア2が必要です。
- 商品を安全にお使いいただくため、ご使用前に必ず「取扱説明書」をよくお読みください。

次の他社商標・登録商標をはじめ本カタログに記載されている会社名、システム名、製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。なお、本カタログでは、™、®、© マークは明記していません。
・Windows は、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。・Pentium は、米国Intel Corporation の登録商標です。

KING キング通信工業株式会社

本社 〒158-0092 東京都世田谷区野毛2-6-6 ☎03(3705)8111
横浜テクニカルセンター 〒225-0014 横浜市青葉区荏田西1-10-1 ☎045(972)5381

お問い合わせ先

東京営業部 ☎03(3705)8111 大阪支店 ☎06(6763)0081
福岡支店 ☎092(441)5781 札幌営業所 ☎011(807)9681
仙台営業所 ☎022(291)0881 名古屋営業所 ☎052(934)0381



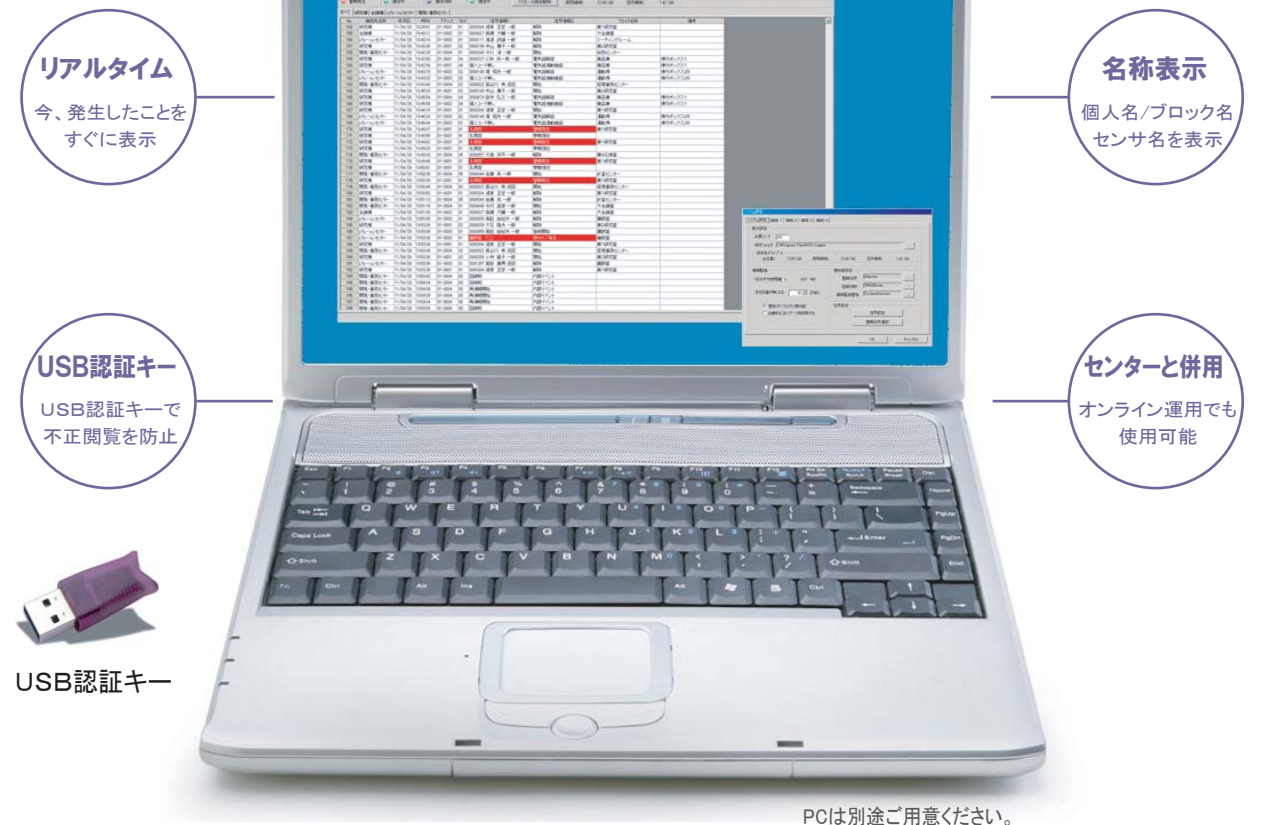
<http://www.king-tsushin.co.jp>

第4版 2102(K)

KFC履歴確認ソフトウェア KFC-Logger

F-10 2G

入室履歴やアラーム履歴をPCでリアルタイムに確認
異常発生時にはアラーム音でお知らせします



■ 汎用PCでイベント履歴をリアルタイムに確認

警戒開始/解除操作やオペレーションターミナルによる入室管理、センサ発報などの履歴をリアルタイムに画面に表示します。

■ 専用のUSB認証キーで不正閲覧を防止

本ソフトウェアに付属されているUSB認証キーが差込まれたPCのみソフトウェアを使用することが可能。USB認証キーは弊社独自の認証コードにより複製することができません。

■ アラーム表示と確認操作

異常発生時には履歴表示画面に赤色で内容が表示され、アラーム音が鳴ります。確認操作を行わないとアラーム音は止まりません。

■ 個人名称表示

予めカード所有者の個人名を登録することで、画面上のイベント履歴に個人名称を表示させることができます。

■ 設定の変更を防止

付属の「機能制限ツール」を使用すると、本ソフトウェアの設定内容の変更や閲覧に制限を加えることができます。

■ 表示するイベント履歴の選択

表示するイベント履歴の種類を予め設定することができます。内部イベントなど監視に必要なない情報を表示させないことで通常の監視に集中できます。

KING SECURITY

シンプルで分かりやすいイベント履歴確認画面

- 発生したイベント履歴を、リアルタイムに表示します。
- タブの名称を建物名称などに変更可能。タブごとに最大3,000件を表示します。
- アラーム発生時には赤色ジャーナルとアラーム音でお知らせします。
- 個人名称やブロック名称、チャンネル名称を表示しますので、異常内容が直感的に分かります。

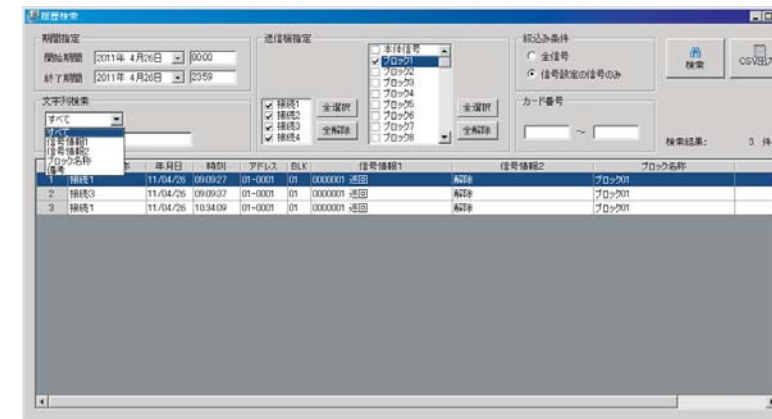
Wクリックでアラーム音が停止します。

アラーム発生時はジャーナルが赤色で表示され、アラーム音が鳴ります。

■ イベント履歴確認

① 履歴表示画面	イベント履歴情報をリアルタイムに表示します。各タブに最大3,000履歴を表示します。	⑧ 接続先名称	コントロールコミュニケータの名称です。システム設定画面で名称が変更できます。
② 接続状態モニタ	コントロールコミュニケータとの接続状態を、アイコンの色と文字で表示します。	⑨ 年月日/時刻	イベント履歴が発生した年月日と時刻です。
③ システム設定	イベント履歴確認システムの設定を行います。	⑩ アドレス/BLK	コントロールコミュニケータに設定されているアドレスとブロック番号を表示します。
④ 履歴検索	イベント履歴画面に表示されたデータを、検索条件を絞り込んで表示します。	⑪ 信号情報 1	チャンネル名称、カード番号またはカードの所有者名称を表示します。
⑤ CSV出力	イベント履歴画面に表示されているデータを、CSVファイルに出力します。	⑫ 信号情報 2	信号情報 1 に対して「システム設定」の「信号設定」で受信選択した信号を表示します。
⑥ 保存先ドライブ	イベント履歴情報の保存先の使用領域と空き領域が、リアルタイムに表示します。	⑬ ブロック名称	コントロールコミュニケータに設定されているブロック名称を表示します。
⑦ タブ	全ての信号とコントロールコミュニケータ別の信号をタブごとに表示します。	⑭ 備考	未使用

様々な条件からイベント履歴を検索します。



履歴検索

- 発生したイベント履歴を、発生期間や文字列、ブロック、カード番号などの各種指定条件で検索します。
- 検索結果はCSVデータとして外部出力することが可能です。

表示するイベント信号を選べます。

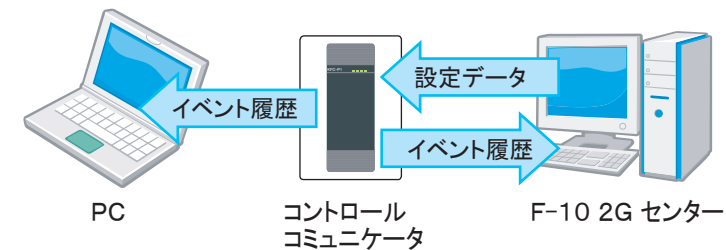


システム設定

信号設定

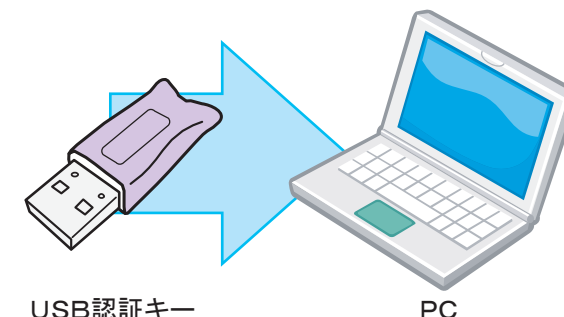
- システム設定では、履歴確認画面に表示するイベント信号の種類の選択が行えます。
- 監視には必要なイベント信号のみを表示させることで、監視業務に集中することができます。
- 非表示としたイベント信号もPC内には保存されていますので、後から検索・閲覧することも可能です。

イベント履歴は、PCとセンターの両方で確認できます。



- コントロールコミュニケータで発生したイベント信号は、リアルタイムでPCに表示されると同時にF-10 2G センターにも送信されます。
- システム設定で非表示とした信号も含め全てF-10 2G センター送信しますので、監視にモレがありません。
- カードの登録・抹消など、コントロールコミュニケータの設定データ変更はF-10 2G センターからオンラインで行いますので、個人情報保護も万全です。

USB認証キーが挿入されたPCのみソフトウェアが起動します。



- KFC-Loggerは、PCIにUSB認証キーを挿入して使用します。
- USB認証キーには独自の認証コードが書き込まれており、複製することは非常に困難です。
- USB認証キーを使用することでイベント履歴閲覧の権限が明確になり、セキュリティ性が高まります。